

施策7

子どもの健全育成  
(全 10 事務事業)

## 施策7.子どもの健全育成

- 施策評価表

- 事務事業評価表

掲載開始  
ページ

1. 中高生世代の居場所づくり事業	(子育て支援課)	1
2. 中高生世代の居場所維持管理事業	(子育て支援課)	3
3. 青少年非行防止支援事業	(社会教育課)	5
4. 青少年育成団体活動支援事業	(社会教育課)	7
5. 子ども会育成会連絡協議会活動支援事業	(社会教育課)	9
6. 子ども読書活動推進事業	(社会教育課)	11
7. 子どもの運動能力向上講習会開催事業	(社会教育課)	13
8. ブックスタート事業	(社会教育課)	15
9. 生涯学習館ジュニア講座開催事業	(社会教育課)	17
10. 地域子ども教室支援事業	(社会教育課)	19

施策評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)			前期基本計画期間 <<令和3年度~7年度>>	
体 総 合 計 系 画	基本目標	2. 子どもの笑顔があふれるまち	施策統括課	社会教育課
	施策	7. 子どもの健全育成	関係課	子育て支援課

1. 施策の成果指標の達成度

成果指標 (関連する町の取り組むべきこと)	単位	基準値	R5目標値	実績値の年次推移	判定
		目標の方向性	R5実績値		
町の行事や地域の活動、サークル活動などに参加した子どもの割合【総合戦略】	%	73.5	73.5		C
施策全体		→	69.0		
青少年育成団体に所属する子どもの人数	人	804	804		C
7-2		→	592		

達成度:a …目標を達成している、b…目標をわずかに達成していない、c…目標を達成していない

2. 町が取り組むべきことの実施状況と方向性

7-1 子どもの居場所をつくる		所管課
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 子どもの居場所づくり 14 位 / 45 位		子育て支援課
町が取り組むべきこと①	子どもにとって気軽に訪れることのできる遊び場や自分らしく安心して過ごせる居場所となるよう、公園や公民館、図書館などの身近な施設を充実させます。	
主な取り組み状況	・中高生世代の子どもの居場所「リリーフ」を坂瀬共同利用施設に設置し、自分らしく安心して過ごせる居場所の提供を行った。	
課題	・施設の老朽化が進んでいる。	
R7年度取り組み方針	・中学校での「出張リリーフ」等を通して、子どもの居場所「リリーフ」の周知を図り、中高生世代の子ども達が気軽に利用できる居場所の提供を行う。	
町が取り組むべきこと②	放課後や学校の長期休業中に安全で安心して活動できる居場所を確保し、多様な体験や活動を選択できる環境をつくります。	
主な取り組み状況	・「リリーフ」の運営をNPO法人スペースdeGUN <sup>2</sup> に委託し、子どもたちの居場所として毎日13時から18時まで開所した。 ・NPO法人スペースdeGUN <sup>2</sup> は子どもたちの学習サポートを行ったり、多様な体験活動を行ったり、相談を受けるなど必要な支援を行った。	
課題	・施設備品等が老朽化している。	
R7年度取り組み方針	・子どもの健全育成や学習支援など放課後や学校の長期休業中の居場所となる事業について引き続き実施するとともに、多様な主体による活動を推進する。	
<b>町が取り組むべきことの達成状況</b>		
<input checked="" type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない		

構成する事務事業(評価対象事業のみ)										
番号	事務事業名		事務事業評価(転記)					施策評価		
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性	
	担当課	会計区分		R4 決算	R5 決算	R6 予算				
1	<b>中高生世代の居場所づくり事業</b>		特定財源	0	0	0	D	○	D	
	中学生から18歳までの子どもが安心して心や体を休めたり、話をしたりなど活動できる場として、坂瀬共同利用施設に「リリーフ」を設置、運営する。		一般財源	5,449	5,406	5,820				
			合計	5,449	5,406	5,820				
			(内 会計年度任用職員人件費)							
子育て支援課	一般会計	関与 正職員数(人)	0.12	0.23	0.14	成果・費用とも維持				
<b>中高生世代の居場所維持管理事業</b>		特定財源	1	0	0		D	-	D	
中高生世代の居場所をして開放している坂瀬共同利用施設を安全で安心して利用できるよう、維持管理を行う。		一般財源	1,942	294	334					
		合計	1,943	294	334					
		(内 会計年度任用職員人件費)								
子育て支援課	一般会計	関与 正職員数(人)	0.07	0.19	0.07	成果・費用とも維持				
<b>町が取り組むべきことを構成する事業の方向性</b>										
ビルド	新規事業の方向性や内容	なし								
	拡充事業の方向性や内容	なし								
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし								
	縮小事業の方向性や内容	なし								
R7年度の町が取り組むべきことの方向性			<input type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input checked="" type="checkbox"/> 維持							

<b>7-2 子どもの健全育成を推進する</b>	<b>所管課</b>
町民意識調査からみた重要度/満足度 順位(53項目中) 子どもの健全育成 10位 / 39位	社会教育課

町が取り組むべきこと①	学校、地域、関係団体と情報を共有し、青少年の非行を未然に防ぐ活動を推進します。
主な取り組み状況	・青少年問題協議会の開催や青少年指導員の委嘱、少年補導員活動への補助金交付など、青少年非行防止への取組を支援した。
課題	なし
R7年度取り組み方針	・引き続き、青少年非行防止への取組を支援する。
町が取り組むべきこと②	子ども会育成会連絡協議会を通じて、地域の子ども会や育成会の活動を支援し、子どもの地域活動を充実させます。
主な取り組み状況	・子ども会育成会についてはその運営費の補助を行い、その活動を支援した。
課題	・地域の子ども会に加入している子どもが減少している。
R7年度取り組み方針	・引き続き、子ども会育成会連絡協議会を通じた活動を支援し、子どもの地域活動を充実させる。
町が取り組むべきこと③	子どもたちの豊かな人間性を育むため、多様な体験活動を体験できる体制を整備し、体験活動の機会を増加させます。【総合戦略】
主な取り組み状況	・地域こども教室や生涯学習ジュニア講座などを開催した。 ・平日の放課後、学校施設の運動場や体育館などをジュニア団体に貸出を行った。 ・青少年が所属する文化・スポーツ団体に補助金を交付することでその活動を支援し、子どもたちのスポーツ・文化活動の機会を確保した。
課題	なし
R7年度取り組み方針	・引き続き、地域こども教室や生涯学習ジュニア講座を開催する。また、青少年育成団体への支援を行う。
町が取り組むべきこと④	おはなし会を通して子どもたちに読書の楽しさを伝え、コミュニケーションを図る力や人を思いやる心を育むことで子どもたちが生きる力を身につけて健やかに成長するよう、本にふれあう機会を提供します。
主な取り組み状況	・おはなし会やイベントを実施し、子どもや保護者に対して本に親しむ楽しさや重要性を伝えた。 ・子どもが興味を持つような特設コーナーを設置し、ホームページ等で情報発信した。 ・ブックスタート事業として、10ヶ月児相談対象者に絵本と子育てに関するリーフレットを配付した。
課題	なし
R7年度取り組み方針	・引き続き、ホームページ、LINE、dボタン広報誌など、様々な手段で情報発信するとともに、幼稚園や学校など関係機関と連携して子どもに読書の楽しさを伝える。 ・継続しておはなし会の場所を確保し、参加しやすい環境を整えるとともに、保護者におはなし会への参加を促す。
<b>町が取り組むべきことの達成状況</b>	
<input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施し、ほぼ目標どおりの成果をあげている <input checked="" type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施したが、成果があがっていない <input type="checkbox"/> 町が取り組むべきことを実施できず、成果があがっていない	

構成する事務事業(評価対象事業のみ)									
番号	事務事業名		事務事業評価(転記)				施策評価		
	事務事業の概要		経費区分	事業費(千円)			今後の方向性	優先度	施策評価での方向性
	担当課	会計区分		R4 決算	R5 決算	R6 予算			
1	<b>青少年非行防止支援事業</b>		特定財源	66	66	66	D	-	D
			一般財源	274	259	319			
	青少年問題協議会や地域青少年指導員の青少年非行防止への取組を支援する。		合計	340	325	385	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.08	0.10	0.11				
2	<b>青少年育成団体活動支援事業</b>		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	1,184	1,245	1,500			
	青少年の健全育成のため、青少年が所属スポーツ、文化団体の活動を支援する。		合計	1,184	1,245	1,500	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.09	0.09	0.10				
3	<b>子ども会育成会連絡協議会活動支援事業</b>		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	300	300	300			
	子ども会育成会連絡協議会に補助金を交付し、活動を支援する。		合計	300	300	300	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.09	0.09	0.10				
4	<b>子ども読書活動推進事業</b>		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	7	105	159			
	子どもが読書の意義や楽しさを知り、読書習慣が身に付くよう、子ども読書活動推進計画に沿った取組を行う。		合計	7	105	159	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.42	0.32	0.72				
5	<b>子どもの運動能力向上講習会開催事業</b>		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	3	1	0			
	児童生徒の運動能力が向上するよう、講習会を開催する。		合計	3	1	0	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.11	0.11	0.11				
6	<b>ブックスタート事業</b>		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	261	302	341			
	絵本で親子のふれあいを深めるため、生後10か月の子どもに絵本と情報チラシの配付及び図書館ボランティアによりおはなし会を実施する。		合計	261	302	341	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.23	0.17	0.32				
7	<b>生涯学習館ジュニア講座開催事業</b>		特定財源	0	0	0	D	-	D
			一般財源	831	762	879			
	児童生徒が体験学習を通じて新たな知識、技能を身につけることができるよう、土曜日や長期休暇時に講座を開催する。		合計	831	762	879	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.12	0.17	0.02				
8	<b>地域子ども教室支援事業</b>		特定財源	0	0	0	D	○	D
			一般財源	3,225	4,096	4,351			
	地域子ども教室運営委員会が円滑に地域子ども教室を運営できるよう支援する。		合計	3,225	4,096	4,351	成果・費用とも維持		
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	0.28	0.13	0.10				
9	<b>子ども読書活動推進計画策定事業(仮)</b>		特定財源	-	-	-	◎	-	S
			一般財源	-	-	-			
	令和7年度で計画期間が終了するため、令和8年度から令和12年度までの次期計画の策定を行う。		合計	-	-	-	◎	-	新規事業
	社会教育課   一般会計		(内 会計年度任用職員人件費)						
		関与 正職員数(人)	-	-	-				
<b>町が取り組むべきことを構成する事業の方向性</b>									
ビルド	新規事業の方向性や内容	・第4次志免町子ども読書活動推進計画が令和7年度で計画期間が終了するため、令和8年度から令和12年度までの次期計画の策定を行う。							
	拡充事業の方向性や内容	なし							
スクラップ	廃止事業の方向性や内容	なし							
	縮小事業の方向性や内容	なし							
R7年度の町が取り組むべきことの方向性			<input checked="" type="checkbox"/> 最優先 <input type="checkbox"/> 優先 <input type="checkbox"/> 維持						

### 3. 施策の総括と今後の展開

施策の成果指標の達成度は「町の行事や地域の活動、サークル活動などに参加した子どもの割合」は目標値を達成していないが、あと少しで目標値を達成する。「青少年育成団体に所属する子どもの人数」は目標値に対して下降傾向にある。子どもたちを取り巻く環境が多様化しているため、施策の成果指標の達成度だけでは測りきれない部分もある。町としては今後も引き続き、青少年の健全育成や子どもの居場所づくりについて、支援する事業を継続して行い、地域と共に活動に取り組んでいく。

### 4. 施策の進行状況

- 目標に向かって順調に進んでいる
- 目標に向かってある程度順調に進んでいる
- 目標に向かってあまり進んでいない
- 目標に向かって進んでいない

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業			<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1107101
事務事業名		中高生世代の居場所づくり事業			担当課	子育て支援課	担当係	子育て支援係
総合計画 系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01	一般会計	
	取り組み方針	7-1	子どもの居場所をつくる		款	03	民生費	
					項	03	児童福祉費	
					目	06	子育て支援事業費	
根拠法令条例等		志免町子どもの権利条例			個別計画			
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 19 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 中学生から18歳までの子ども ⑧ ⑨	人	3,020	3,177	3,168
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	坂瀬共同利用施設を子ども(中学生から18歳まで)の居場所「リリーフ」を設置、運営する(年末年始[12/28~1/4]を除く毎日、平日13時~19時、土日祝日10時~17時) ・NPO法人との委託契約、委託料支払い事務 ・活動報告内容のチェック等				
	②意図	・安心して心や体を休めたり、話をしたりなど活動できる場がある				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	開所日数	日	目標	357	358	359
				実績	356	355	
イ	成果	新規登録者数	人	目標	30	20	30
				実績	18	32	
ウ	成果	来所人数(延べ)	人	目標	600	500	600
				実績	278	459	
エ	成果	複数回来所する登録者の割合 (複数回来所者数/登録者数)	%	目標	60.0	65.0	50.0
				実績	61.0	40.5	
オ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	5,449	5,492	0	5,820	
		合計(A)	5,449	5,492	0	5,820	5,492
		(内 会計年度任用職員人件費)					
		正職員人件費[按分](B)	909	787	1,716	1,084	
	トータルコスト(A)+(B)	6,358	6,279	1,716	6,904		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.12	0.10	0.23	0.14	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 平成19年度より施行された「志免町子どもの権利条例」に、「町は居場所の確保と充実に努める」と規定されている。	②事務事業を取り巻く環境の変化 令和5年4月子ども基本法が施行され、国全体で子ども施策を推進することとなった。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 事業対象者から、「とても安心できる」「とても楽しい」などの意見がある。 坂瀬共同利用施設が中央小学校区域にあるため、その他の小学校区域の子どもは、子どもだけで来室できないとの意見がある。
--	--	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	中高生世代の子どもが安心して心や体を休めたり、話をしたりなど活動できる場があることは、一人ひとりが互いに認めあい、年齢の違いなどに関わりなく誰もが安心して、いきいきと輝き暮らせるまちに直結する。 総合計画に町が取り組むべきことで「子どもの居場所をつくる」としており、安全で安心して活動できる居場所を確保し、多様な活動ができる場があるのは妥当である。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	年未年始を除き年間を通じて開館しており、居場所が必要な時に気軽に利用することができているため期待する成果が得られている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	町職員は契約や支払事務等のみであり効率的である。 スタッフ配置や活動に必要な委託料と、光熱水費、電話料等施設の運営に必要な経費であり適切である。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)	
		0点	1点	2点	3点		
分析・検証結果	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下がった影響もあり、新規登録者数、来所人数が大幅に増加した。しかし、複数回来所する登録者の割合は減少したので、新規イベント等を考案するとともに、今後も、居場所を必要としている志免町の中学生から18歳までの子どもたちに「リリーフ」の周知を行っていきたい。 子ども達を取り巻く社会環境の変化に伴い、小学生の受け入れも検討して、令和6年3月から試行で小学6年生の受け入れも可能とした。しかし、坂瀬共同利用施設が中央小学校区域にあるため、その他の小学校区域のこどもは、こどもだけで来室できない課題がある。
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
		合計6点	c	b	a	a	
	<b>a</b>	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A
		維持		E	<b>D</b>	
		縮小		F		
		休廃止	G			
	<b>D</b>	成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1107102	
事務事業名		中高生世代の居場所維持管理事業		担当課	子育て支援課	担当係	子育て支援係
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	7-1	子どもの居場所をつくる		款	03	民生費
				目	03	児童福祉費	
				目	06	子育て支援事業費	
根拠法令条例等				個別計画			
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 19 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 坂瀬共同利用施設	施設	1	1	1
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	・安全で安心して利用できるように管理される 中高生世代の居場所として開放している施設の維持管理を行う ・業務委託契約事務(機械警備、消防設備、AEDリース等) ・修繕業務				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率	
ア	活動	業務委託件数	件	目標	3	3	3	100.0%
				実績	3	3		
イ	活動	修繕件数	件	目標	2	2	1	100.0%
				実績	2	2		
ウ	活動	工事件数	件	目標	1	0	0	
				実績	1	0		
エ	成果	予定した維持管理業務の進行度	%	目標	100.0	100.0	100.0	100.0%
				実績	100.0	100.0		
オ	成果	事故発生件数	件	目標	0	0	0	
				実績	0	0		
カ				目標				
				実績				

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	1	0	0	0	
		一般財源	1,942	331	0	334	
		合計(A)	1,943	331	0	334	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		523	1,166	1,404	558	
	トータルコスト(A)+(B)		2,467	1,497	1,404	892	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.07	0.15	0.19	0.07	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 坂瀬共同利用施設は昭和53年から地域の公民館として使用されてきたが、別の施設を公民館として使用することになった。そこで、子どもの権利条例(平成19年施行)に基づいた子どもの居場所として、平成19年から坂瀬共同利用施設を開放したことにより、維持管理事業を行うことになった。	②事務事業を取り巻く環境の変化 なし	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 議員から、トイレが男女一緒に使いにくい、施設が老朽化しており、修繕では限界があり、将来的に新しい施設等検討する必要がある等の意見がある。
---	-----------------------	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	中高生世代居場所として安全で安心して利用できるように管理されることは、一人ひとりが互いに認め合い、年齢の違いなどにかかわらず、誰もが安心して、いきいきと輝き暮らせるまちに直結する。	3	
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			総合計画に町が取り組むべきことで「子どもの居場所をつくる」としており、安心して安全に利用できるよう維持管理を行っているため妥当である。
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			条例に定められている居場所であり、町の施設であるため妥当である。
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	施設の維持管理に必要な業務委託を実施しており、継続して安全な状況が保たれているため期待する成果が得られている。	3	
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			子どもの居場所として使用している町の施設であり、適切である。
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			施設の維持管理に必要な業務のみ委託し、管理しているため適切である。
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	維持管理に必要な業務委託に係る業務のみのため、町職員が担う部分は契約や支払事務等のみであり効率的である。	3	
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			施設の維持管理に最低限必要な経費のみのため、削減の余地がない。
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			活用できる国や県の補助金はない。

分析・検証結果	妥当性	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	建物自体が老朽化しており、修繕の必要箇所は多々ある。業者によるとすべての問題箇所を完全に解決するには、全体的な修繕が必要とのこと。 志免町公共施設個別施設計画における坂瀬共同利用施設の改修は令和12年以降となる。今年度は、砂利駐車場のくぼみ修繕と施設周り側溝土砂清掃を行った。
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
<b>a</b>	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	<b>D</b>		
	縮小		F			
	休廃止	G				
<b>D</b>	成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1507201	
事務事業名		青少年非行防止支援事業		担当課	社会教育課	担当係	社会教育係
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する		款	10	教育費
根拠法令条例等		地方青少年問題協議会法、志免町青少年問題協議会設置条例、地域青少年問題協議会設置規則、志免町青少年問題協議会青少年問題協議会設置規則		目	05	社会教育費	
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 不明 年度より開始		個別計画	03	青少年育成対策費	
				<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 地域青少年指導員 ⑧ 青少年問題協議会 ⑨ ・青少年非行防止の活動が活発に行われる	人 団体	169 1	169 1	169 1
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	青少年非行防止活動への取組の支援を行う ・青少年問題協議会の開催(年2回) ・青少年健全育成講演会の開催(年1回) ・少年補導員への補助金交付事務				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	青少年問題協議会開催数	回	目標	2	2	2
				実績	2	2	2
イ	活動	青少年健全育成講演会開催数	回	目標	1	1	1
				実績	1	1	1
ウ	活動	少年補導員活動事業費補助金額	千円	目標	100	100	100
				実績	100	100	100
エ	成果	青少年育成講演会参加者数	人	目標	100	100	100
				実績	113	139	139
オ	成果	子どもの補導件数(町内)	件	目標	20	20	20
				実績	10	不明	
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	66	0	66	0
財源		その他特定財源	0	66	0	66	
		一般財源	274	346	259	319	
		合計(A)	340	412	325	385	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		607	776	835	973	
	トータルコスト(A)+(B)		948	1,188	1,160	1,358	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.08	0.10	0.10	0.11	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 昭和51年3月29日に条例が制定され、青少年の指導、育成、保護及び矯正に関する総合的施策の樹立につき、必要な事項を調査審議してきた。	②事務事業を取り巻く環境の変化 昭和24年の青少年問題対策協議会の設置から始まり、昭和28年に地方青少年問題協議会法が制定された(内閣府)。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 講演会の参加者からは、子育て関連や携帯電話・インターネット等のメディアに関する内容の要望が多い。子育て中の親世代の参加を増やすべきであるとの意見もある。
--	---	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	青少年の非行、犯罪行為を未然に防止するため、地域で活動する各団体間で意見交換や情報共有を行い、地域全体で子どもを育てることは上位施策への貢献度は高い。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	青少年問題・非行防止対策も多様化している昨今、青少年の現状を分析し、研修内容等を考え成果を向上させる余地がある。	2
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	会議の手配など必要最小限の事務量である。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

分析・検証結果		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	青少年問題協議会では、各団体の代表者がそれぞれの立場で意見を出し合い、情報交換を活発に行うことができた。また、青少年健全育成講演会では、「青少年健全育成とは」をテーマに講演を実施し、青少年への指導等について研修を行い多くの参加をいただいた。引き続き、地域全体で青少年の健全育成に取り組んでいきたい。
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
	<b>a</b>	業務の内容は適切である				

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	<b>D</b>		
	縮小		F			
	休廃止	G				
	<b>D</b>	成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業			<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業		事務事業コード	1507202
事務事業名		青少年育成団体活動支援事業			担当課	社会教育課	担当係	社会教育係
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成		予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する			款	10	教育費
根拠法令条例等					志免町青少年特別育成費補助金交付要綱		個別計画	
実施期間		<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 S 51 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度～ 年度

1 計画・実施(P.L.A.N・D.O)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 青少年育成団体 ⑧ ⑨ ・活動が活発に行われる	団体	24	24	30
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	青少年の健全育成のため、青少年が所属するスポーツ、文化団体の活動の支援を行う ・補助金の交付				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金交付団体数	団体	目標	30	30	30
				実績	24	25	83.3%
イ	活動	補助金額	千円	目標	1,500	1,500	1,500
				実績	1,186	1,245	83.0%
ウ	成果	青少年育成団体に所属する子どもの人数	人	目標	804	600	600
				実績	560	592	98.7%
エ				目標			
エ				実績			
オ				目標			
オ				実績			
カ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	1,184	1,500	1,245	1,500	
		合計(A)	1,184	1,500	1,245	1,500	1,500
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)	692	695	748	875		
	トータルコスト(A)+(B)	1,876	2,195	1,993	2,375		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.09	0.09	0.09	0.10	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 昭和51年度から青少年の健全育成を願って始める。	②事務事業を取り巻く環境の変化 21年度に人数割りを均等割り(上限有り)へ変更。24年度より、均等割りの補助金交付基準に満たない団体へは、その団体の活動内容に応じた額(補助対象経費の2分の1以内の額)を交付するように変更した。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 団体により人数の差が大きいため、人数が多い団体より、補助金の額は均等割りではなく、人数割りにしてほしいとの意見がある。
--	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定						
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	青少年育成団体の活動が活発に行われることは、子どもたちが様々な体験を通して健やかに成長し、地域で安心して自分らしく過ごせる居場所となるまちづくりを目指す上位施策に直結する。	3						
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	総合計画において、町が取り組むべきこととして子どもの健全育成を推進することが掲げられているため適切である。							
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	子どもの健全育成を推進していくためには、その活動を行っている団体に対して、町は主に情報の共有と活動費への一部補助など経済的な支援を行い、団体と協働することが必要である。							
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	新型コロナウイルス感染症が5類相当に引き下げられ、団体の活動が活発化していくのに合わせ、今後は期待される充実した活動を実施されることで成果向上が見込まれる。	2						
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	志免町青少年特別育成費補助金交付要綱で定められた対象団体のため適切である。							
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	団体へ補助金交付等の支援を行うことにより、その活動が活性化され、子どもの健全育成につながるため適切である。							
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	補助金交付事務等は必要最小限の職員で行っており、見直しの余地はない。	3						
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	予算枠(補助上限有り)を設けて活動実績に応じて補助金を交付しており、必要最低限の投入コストであるため削減の余地はない。							
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	国や県等の活用できる補助等はない。							
分析・検証結果			妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)			
			0点	1点	2点	3点	コロナが5類相当に引き下げられたため、各団体とも徐々にこれまで以上に活動を行っている。今後状況が回復すればこれまで同様に様々な活動が可能となるため、青少年の健全育成に向けた取り組みを支援して成果向上を図りたい。			
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c				
		いずれか1点	c	c	c	c				
		合計4点	c	c	b	b				
		合計5点	c	b	b	a				
合計6点		c	b	a	a					
a		業務の内容は適切である								

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)			
		皆減	縮小	維持	拡大				
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)			
	維持	E	D						
	縮小	F							
	休廃止	G							
D		成果・費用とも維持							

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1507203	
事務事業名	子ども会育成会連絡協議会活動支援事業			担当課	社会教育課	担当係	社会教育係
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する		款	10	教育費
根拠法令条例等				個別計画	項	05	社会教育費
					目	03	青少年育成対策費
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 不明 年度より開始			<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 子ども会育成会連絡協議会 ④ ⑤	団体	1	1	1
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	志免町子ども会育成会連絡協議会に補助金を交付し、活動支援を行う ・補助金交付 ・協議会が行う主催事業の連絡調整(事務局) ・糟屋地区子ども会育成会連絡協議会との連絡調整				
	②意図	・活動が活発に行われる				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金額	千円	目標	300	300	300
				実績	134	134	44.7%
イ	成果	子ども会育成会連絡協議会主催・参画事業数	事業	目標	5	5	5
				実績	4	4	80.0%
ウ				目標			
				実績			
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	300	300	300	300	
		合計(A)	300	300	300	300	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)	692	695	748	875		
	トータルコスト(A)+(B)	992	995	1,048	1,175		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.09	0.09	0.09	0.10	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 昭和50年頃、各子ども会育成会が相互に協力して子ども会の育成を図ることを目的に組織された協議会に対し交付された。	②事務事業を取り巻く環境の変化 平成21年度、補助金を4万円削減。平成22年度も2万円削減し30万円にしている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 なし
--	---	----------------------------

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	子ども会や育成会の活動が活発に行われることは、子どもたちが様々な体験を通して健やかに成長し、地域で安心して自分らしく過ごせる居場所となるまちづくりを目指す上位施策に直結する。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	子ども会育成会の相互連携と親睦を図るため様々な事業(行事)を行っており、期待する効果が得られている。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	補助金交付事務等は必要最小限の職員で行っており、見直しの余地はない。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

分析・検証結果		妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	新型コロナウイルス感染症も5類に引き下げられ、今年度は普段どおりの事業を実施することが出来た。子ども会育成会連絡協議会については、役員の担い手不足が課題として挙げられ、後継者の育成・発掘が必要である。今後も子どもたちの健全育成に向けた取り組みを支援し、課題を克服して継続的な事業運営を図っていきたい。
	いずれか1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
	<b>a</b>	業務の内容は適切である				

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
成果の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	<b>D</b>		
	縮小		F			
	休廃止	G				
	<b>D</b>	成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業	事務事業コード	1507204
事務事業名	子ども読書活動推進事業		担当課	社会教育課	担当係 町民図書館
総合計画系	施策	07 子どもの健全育成	予算科目	会計	01 一般会計
				款	10 教育費
	取り組み方針	7-2 子どもの健全育成を推進する		項	05 社会教育費
			目	06 町民図書館費	
根拠法令条例等		子どもの読書活動の推進に関する法律		個別計画	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 13 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~ 年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		㊦ 子ども(0歳~18歳の町民)	人	9,296	9,143	9,076
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	子ども読書活動推進計画に沿った、子どもの読書活動を推進する取組を行う ・子ども講座の開催(手遊び歌講座、館内での季節イベント開催) ・おはなし会の開催(図書館おはなし会、シーメイトおはなし会、ねっこぼっこおはなし会など)				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	子ども講座開催数(工作教室)	回	目標	2	1	1
				実績	1	1	
イ	活動	子どもを対象とした館内イベントの開催数	回	目標	1	5	3
				実績	1	5	
ウ	活動	おはなし会開催数(シーメイト、小中学校)	回	目標	105	105	100
				実績	50	80	
エ	成果	子ども講座延べ参加者数	人	目標	400	100	100
				実績	8	80	
オ	成果	子どもを対象としたイベント延べ参加者数	人	目標	800	800	800
				実績	532	1,221	
カ	成果	おはなし会延べ参加者数(シーメイト、小中学校)	人	目標	2,100	2,100	1,800
				実績	1,640	1,576	

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	7	159	105	159	
		合計(A)	7	159	105	159	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		3,217	2,479	2,667	6,334	
	トータルコスト(A)+(B)		3,224	2,638	2,772	6,493	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.42	0.32	0.32	0.72	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 志免町民図書館開館当初より、図書館事業の一環としておはなし会等を開始した。令和3年度から、子どもの読書活動に関する事務事業3つを統合し、子ども読書活動推進事業として取り組むこととした。	②事務事業を取り巻く環境の変化 子どもの読書活動推進に関する法律(平成13年)に基づき、子ども読書活動推進基本が策定され、子どもの読書活動支援が大きく前進した。令和2年4月に第四次志免町子ども読書活動推進計画を策定し、継続して子どもの読書に関する施策を展開している。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 講座やおはなし会の参加者より、「楽しかった」「参加してよかった」「また参加したい」との声あり。
--	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	子ども達の読書習慣が身につくことは、豊かな人間性と想像力を育むことにつながっている。	3	
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			総合計画および子ども読書活動推進計画に基づいた事業であるため適切である。
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施している。
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	コロナ禍が5類になったこともあり、控えられていたイベントやおはななし会等も時間の延長や人数等を徐々に増やしている。	2	
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			本事業の対象を子ども(18歳以下)とすることは、法令に定められている
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			発達段階に応じて内容を充実させたり、より効果的な手段を模索する余地はある。
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	手段に応じてボランティア等、地域資源を活用することで効率化を図る可能性はある。	3	
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			前回、類似事業を統合して予算化したことから、重複する支出を抑えることが可能となったため削減の余地は無い。
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			国や県からの補助金はない。

分析・検証結果	妥当性	0点 1点 2点 3点				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		いずれか0点	d	c	c	
いずれか1点	c	c	c	c		
合計4点	c	c	b	b		
合計5点	c	b	b	a		
合計6点	c	b	a	a		
<b>a</b>	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	<b>D</b>		
	縮小		F			
	休廃止	G				
<b>D</b>	成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1507205	
事務事業名	子どもの運動能力向上講習会開催事業			担当課	社会教育課	担当係	スポーツ振興係
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する		款	10	教育費
					項	06	保健体育費
					目	02	体育振興費
根拠法令条例等				個別計画			
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 22 年度より開始			<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
		㊦ 児童生徒	人	3,020	2,935	2,924
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	・運動能力が向上する				
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	講習会の開催を行う(平成28年度よりアビスパ福岡と協力して開催) ・広報活動(広報紙、ホームページ、チラシ) ・開催準備、当日進行、講師補助、後片付け				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	講習会開催数	回	目標	1	1	100.0%
				実績	1	1	
イ	成果	講習会参加者数	人	目標	80	80	40.0%
				実績	54	32	
ウ				目標			
				実績			
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	3	85	1	0	
		合計(A)	3	85	1	0	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		841	856	922	973	
	トータルコスト(A)+(B)		845	941	923	973	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.11	0.11	0.11	0.11	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 子どもの運動能力の低下が見られる中で、子どもの体力向上に向けた取り組みが必要であり、平成22年度に事業を開始した。	②事務事業を取り巻く環境の変化 なし	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 参加者から、次回も参加したいとの声がある。
---	-----------------------	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	子どもの運動能力低下は社会的な問題であり、運動能力向上のきっかけとなる事業を開催することは、子どもの健やかな成長に貢献できると考えられる。	3
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	子どもの運動能力低下と運動離れに対処し、楽しみながら子どもに運動を好きにさせる取組みとして期待する成果が得られる。	3
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	必要最低限の人数で事務を行っており見直しの余地はない。	3
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

分析・検証結果	妥当性	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など)
		0点	1点	2点	3点	
有効性・効率性	いずれも0点	d	c	c	c	子どもたちに、運動することが定着するような仕掛けが必要である。運動をすることのきっかけづくりとして参加者を増やすようにPR活動の必要がある。 また、令和6年度は事務事業としては「スポーツイベント開催事業」に統合することとする。
	いずれも1点	c	c	c	c	
	合計4点	c	c	b	b	
	合計5点	c	b	b	a	
	合計6点	c	b	a	a	
<b>a</b>	業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	拡充		C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
	維持		E	<b>D</b>		
	縮小		F			
	休廃止	G				
<b>D</b>	成果・費用とも維持					

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1507206	
事務事業名		ブックスタート事業		担当課	社会教育課	担当係	町民図書館
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01 一般会計	
	取組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する		款	10 教育費	
根拠法令条例等				個別計画	項	05 社会教育費	
					目	06 町民図書館費	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 14 年度より開始			<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 生後10カ月の子ども(及びその保護者)	人	553	336	349
事業内容	③手段 (どのようにして)	健康課事業の「10カ月赤ちゃん相談日」で絵本を1冊と情報チラシ等の配付を行う				
	※実施年度に行った主な活動	・絵本の購入、支払事務 ・会場準備、受付、絵本配布				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア 活動	おはなし会開催数	↑	回	目標	12	12	100.0%
				実績	0	12	
イ 成果	検診参加者のうち、絵本を受け取った人の割合	↑	%	目標	100	100	100.0%
				実績	100	100	
ウ				目標			
				実績			
エ				目標			
				実績			
オ				目標			
				実績			
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円)		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	特定財源	国・県支出金、地方債 その他特定財源	0	0	0	0	
	一般財源		261	339	302	341	
	合計(A)		261	339	302	341	
	(内 会計年度任用職員人件費)						
	正職員人件費[按分](B)		1,757	1,008	1,420	2,822	
	トータルコスト(A)+(B)		2,018	1,347	1,723	3,163	
関与職員数(単位:人)	正職員		0.23	0.13	0.17	0.32	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 赤ちゃんのこぼれと心を育むためには、保護者のぬくもりの中でやさしく語りかける時間が大切だといわれており、そのかけがえのないひとときに「絵本」を通してこぼれと心を通わせることを応援するため、健康課・社会教育課(町民図書館)・子育て支援課の3課で協議を行い、平成14年4月より開始。	②事務事業を取り巻く環境の変化 本の配付というばらまき形の支援が疑問視されていたこと、その後の図書館の利用等につながっていないこともあり、平成22年度は絵本は貸出という形で行った。しかし、「存続すべきだ」という町長の意向により、平成23年度は再び配付という形で実施している。平成28年度からは主管課が子育て支援課から社会教育課(町民図書館)へ変更。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 本がもらえるのは嬉しい。ぜひ子どもに読んであげたい。手あそびを教えてもらって助かる。健診の待ち時間が楽しくて助かった。(対象者)
---	---	--

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	本事業を通して保護者やその子どもに読書の楽しさを伝えることは、子どもの健全育成につながっている。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	町の施策目標である子どもの豊かな人間性、想像力の育成につながる事業であるため適切である。				
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	子ども読書活動推進計画に基づいた事業であり、町の施策として子どもが本に親しむことで心豊かな感性や想像力を育むことを目的とし、乳幼児期から実施している取組である。				
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	10カ月健診にきた子ども全員に絵本を配付している。集団健診に参加できなかった子どもには後日健康課を訪ねた際に図書館に寄ってもらい絵本配付している。今のところこれ以上の成果向上の余地はない。	3			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	音やことばに興味をもち、発語する発達段階の時期の子どもを対象としているのは適切である。				
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	検診のために来館する対象の子どもと保護者に配付しているため、適切な手段である。				
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	図書館職員等が10か月相談の流れに1名または2名が担当して説明しながら手渡ししているため、とても効率的だと考える。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	絵本購入等の必要最低限の予算である。				
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	国県などからの補助金等は無い。受益者負担を求める事業ではない。				
分析・検証結果			妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など) 今年度も新型コロナ感染症後の実施方法の変更により、あらかじめ受付時間を指定し分散して検診を行う形式であるため、昨年度と同様に読み聞かせ向けの本やリーフレットを配付する方法になっているが、対面による読み聞かせの体験の機会をつくる目的でシームレスおはなし会などの紹介をしている。今後も引き続き、図書館(社会教育課)、子育て支援課が連携して事業を実施していく。
			0点	1点	2点	3点	
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c	c	c	
		いずれか1点	c	c	c	c	
		合計4点	c	c	b	b	
		合計5点	c	b	b	a	
合計6点	c	b	a	a			
<b>a</b>		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	成果の方向性	拡充		C	B	A
		維持		E	<b>D</b>	
		縮小		F		
		休廃止	G			
<b>D</b>		成果・費用とも維持				コストの方向性(一般財源・関与職員数)

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業 <input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業			事務事業コード	1507207	
事務事業名		生涯学習館ジュニア講座開催事業		担当課	社会教育課	担当係	生涯学習1号館
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計	01	一般会計
	取り組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する		款	10	教育費
根拠法令条例等				個別計画	項	05	社会教育費
					目	08	生涯学習館運営費
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 14 年度より開始		<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)		年度~	年度	

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	⑦ 小学校児童、中学生徒	人	4,621	4,620	4,620
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	・体験学習を通して新たな知識、技能が身につく 学校休日の土曜日及び長期休暇に講座の開催を行う(長期講座、単発講座) ・講座の企画、広報掲載、募集チラシの発行、小中学校への募集 ・参加受付				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	講座企画数	講座	目標	13	20	20
				実績	20	17	85.0%
イ	活動	講座開催数(延べ)	回	目標	65	80	90
				実績	100	90	112.5%
ウ	成果	講座受講者数	人	目標	390	300	300
				実績	242	210	70.0%
エ	成果	受講者満足度	%	目標	98	98	98
				実績	87	90	92.0%
オ				目標			
カ				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	831	879	762	879	
		合計(A)	831	879	762	879	
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)	916	1,320	1,420	173		
	トータルコスト(A)+(B)	1,747	2,199	2,182	1,052		
関与職員数(単位:人)		正職員	0.12	0.17	0.17	0.02	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 学校週5日制の完全実施により「子どもの居場所づくり」を設定するため、平成14年度より開始された。	②事務事業を取り巻く環境の変化 ・「子どもの居場所リリーフ」が平成19年7月開設。 ・地域社会の変容等により子ども会等の育成会活動に支障が出てきている。 ・小中学校で土曜日に授業やフェスタが開催されるようになってきたため、長期講座企画が難しくなっている。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 生涯学習推進委員会から、抽選に漏れる子どもたちがなるべく減るような工夫をしてほしいとの要望がある。
--	--	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	この事業の成果と上位施策の成果は同一であり、この事業の成果が向上することは、上位施策の成果が向上することになる。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			総合計画の町が取り組むべきことで「子どもの健全育成を推進する」としているため。		
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い			条例により、生涯学習館において生涯学習を推進する事業を行うこととなっているため。		
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	長期講座の期間や回数等を見直す(例:同じ講座を前半と後半の2回行うなど)ことで、より多くの子どもが受講できることが期待できる。	2			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			ジュニア講座の受講対象は、小学校児童、中学校生徒であるので適切である。		
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			条例により、生涯学習を推進する講座を開設することになっており、他に有効な手段はない。		
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	関与職員等も最小限で行っているため適切である。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			講座開催に必要な最小限の費用で行っているため適切である。		
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い			国や県等の補助金等はないため適切である。		
分析・検証結果			妥当性		分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など) なるべく多くの子どもたちが受講できるよう、長期講座の開催日の設定等課題もあるため、3~4か月くらいの中期の講座を検討したり、また夏休みや春休みに行っている単発講座について回数を増やす等工夫する必要がある。		
			0点	1点		2点	3点
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c		c	c
		いずれか1点	c	c		c	c
		合計4点	c	c		b	b
		合計5点	c	b		b	a
合計6点	c	b	a	a			
<b>a</b>		業務の内容は適切である					

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

今後の方向性	成果の方向性	コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
		拡充		C	B	A
維持		E	<b>D</b>			
縮小		F				
休廃止		G				
<b>D</b>		成果・費用とも維持				

事務事業評価表 (事業実施年度:令和 05 年度)

[福岡県志免町]

基本情報		<input checked="" type="checkbox"/> 05年度 実施計画事業	<input type="checkbox"/> 総合戦略該当事業	事務事業コード	1507208
事務事業名	地域子ども教室支援事業		担当課	社会教育課	担当係 社会教育係
総合計画系	施策	07	子どもの健全育成	予算科目	会計
	取り組み方針	7-2	子どもの健全育成を推進する		款
根拠法令条例等	子どもの権利条例、志免町地域子ども教室事業補助金交付要綱			個別計画	
実施期間	<input type="checkbox"/> 05年度のみ		<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 H 19 年度より開始	<input type="checkbox"/> 期間限定(複数年)	年度~ 年度

1 計画・実施(PLAN・DO)

(1) 事務事業の目的と事業内容

事務事業の目的	①対象 (誰を、何を)	対象名	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)
	②意図 (対象をどのような状態にしたいか)	㊦ 志免町地域子ども教室運営委員会 ㊧ 小学校児童 ㊨	団体 人	1 2,986	1 2,957	1 2,848
事業内容	③手段 (どのようにして) ※実施年度に行った主な活動	地域子ども教室の開催について支援を行う ・補助金交付事務(運営委員会経費、各地域子ども教室実施経費) ・申請受付補助事務(申請受付窓口事務) ・開催に係る調整				

(2) 指標達成状況

種別	指標名	目指すべき方向性	単位	04年度	05年度	06年度 (見込)	達成率
ア	活動	補助金交付件数	件	目標	1	1	1
				実績	1	1	100.0%
イ	活動	申請受付数	人	目標	110	110	110
				実績	87	101	91.8%
ウ	成果	地域子ども教室開催校区数	校区	目標	4	4	4
				実績	4	4	100.0%
エ	成果	地域子ども教室開催日数	日	目標	26	25	25
				実績	23	22	88.0%
オ	成果	参加した児童数	人	目標	110	110	110
				実績	84	98	89.1%
カ				目標			
				実績			

(3) 総事業費の推移

事業費	財源内訳(単位:千円) ※四捨五入により合計値が合わないことがあります		04年度 (決算値)	05年度 (当初予算)	05年度 (決算値)	06年度 (当初予算)	07年度 (計画)
	経費	特定	国・県支出金、地方債	0	0	0	0
財源		その他特定財源	0	0	0	0	
		一般財源	3,225	4,096	4,096	4,351	
		合計(A)	3,225	4,096	4,096	4,351	4,096
		(内 会計年度任用職員人件費)					
	正職員人件費[按分](B)		2,149	1,008	1,084	875	
	トータルコスト(A)+(B)		5,374	5,104	5,180	5,226	
関与職員数(単位:人)		正職員	0.28	0.13	0.13	0.10	

(4) 環境変化・住民意見等

①事務事業開始のきっかけ 平成15年度、国が打ち出した地域子ども教室推進事業(16年度開始)がきっかけとなった。町が平成17年度に地域の大人達に呼びかけ、先進地視察等に参加してもらい、地域子ども教室の開催へと導いた。17年度に小学校の休業中(夏・秋・冬・春の各休み)に校区の小学1年生から6年生までを対象に参加者募集を行い、開始した。	②事務事業を取り巻く環境の変化 夏休み期間に子どもだけで参加できる活動の需要が高い。	③事務事業に対する関係者からの意見・要望 「夏休みだけでなく、春休みも開催してほしい」や、抽選で外れた子どもの世帯からは、「定員を増やしてほしい」との声がある。
--	---	---

2 分析・検証(CHECK)

評価の視点		項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定			
妥当性	上位施策への貢献度 (事務事業の成果が上位施策の目指す姿の実現に直結しているか)	<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度高い <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度低い	運営委員会が円滑に地域子ども教室を運営でき、子どもが学校休業中に多様な体験をできる場所があることは、健やかに成長するとともに、地域が子どもにとって安心して自分らしく過ごせる居場所となるまちづくりに直結している。 総合計画の町が取り組むべきことで「子どもの健全育成を推進する」と掲げ、多様な体験活動を経験できる体制を整備し、体験活動の機会を増加させているため。	3			
	意図の適切性 (総合計画、町民のニーズ、法令等に対して、意図が適切であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い					
	自治体関与の必要性 (自治体が主体で取り組むべき事業か、住民参画の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い					
有効性	成果の向上余地 (期待する成果を得られたか、今後期待する成果をあげる余地があるか)	<input type="checkbox"/> 期待する成果が得られている <input checked="" type="checkbox"/> 成果の向上余地がややある <input type="checkbox"/> 成果の向上余地が多い	コロナ禍の影響で定員を削減していた、今後は現場の声も聞きながら、慎重に以前の定員数に戻していく余地がある。	2			
	対象の適切性 (意図を達成するうえで、現状の対象設定が最も有効か、他に有効な対象設定はないか)	<input type="checkbox"/> 適切である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
	手段の適切性 (意図を達成するうえで、現状の手段が最も有効か、他に有効な手段はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
効率性	業務の効率化 (業務手順、関与職員人数について見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 効率的である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	補助金の執行業務と申込受付・調整業務のみである。	3			
	投入コストの適切性 (投入するコストは適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
	財源確保の適切性 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い					
分析・検証結果	妥当性				分析・検証結果に対する総括(05年度の振り返り・課題点とその対応策など) 今年度より社会教育課の所管となったが、昨年度に引き続き、大きな事故もなく事業を支援することができた。夏休みの子どもの体験活動の場としての需要が高い。来年度は、コロナ禍によって削減していた定員数の見直しと、社会教育という観点から、学童保育に在籍する児童も対象とすることを視野に入れて、事業を支援していくことが課題である。		
		0点	1点	2点		3点	
	有効性・効率性	いずれか0点	d	c		c	c
		いずれか1点	c	c		c	c
		合計4点	c	c		b	b
		合計5点	c	b		b	a
合計6点	c	b	a	a			
a	業務の内容は適切である						

3 方針(ACTION) [分析・検証結果をもとに07年度以降の対応方針を検討する]

		コストの方向性				成果の方向性(取り組み概要と期待される効果)
		皆減	縮小	維持	拡大	
今後の方向性	成果の方向性	拡充	C	B	A	コストの方向性(一般財源・関与職員数)
		維持	E	D		
		縮小	F			
		休廃止	G			
D		成果・費用とも維持				